

「全国・学力学習状況調査」は、文部科学省が今後の教育施策や教育活動の改善に役立てるために、全国の小学校6年生、中学校3年生を対象に毎年実施する調査です。（本年度は4月17日実施）

## 1 調査の目的（文部科学省による調査）

- ◇義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図る。
- ◇学校における児童生徒への教育指導の充実や学習状況の改善等に役立てる。
- ◇そのような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。

## 2 調査内容

### ① 教科に関する調査（国語、算数・数学、理科）

- ② ①身に付けておかなければ後の学年等の学習内容に影響を及ぼす内容や、実生活において不可欠であり常に活用できるようになっていることが望ましい知識・技能 等
- ②知識・技能等を実生活の様々な場面に活用する力や、様々な課題解決のための構想を立て実践し評価・改善する力 等（調査問題では①と②を一体的に問うこととする）

生活習慣や学習環境等に関する質問紙調査（児童生徒に対する調査、学校に対する調査）

## 3 分析結果（岡谷市学力向上推進委員会による分析の概要）

### 【教科に関する調査】

- 小学校では、国語・算数・理科の平均正答率は全国と同程度で、県を上回りました。
- 中学校では、国語の平均正答率は県・全国と同程度、数学は全国と同程度で県を上回りました。
- 理科は県・全国を上回りました

### 【質問紙調査】

- 先生との良好な信頼関係が築けています 「先生は、あなたの良いところを認めてくれていると思いますか」という質問に対し、多くの児童生徒が肯定的に回答しました。このことから、岡谷の子どもたちは先生から認められていると感じ、学校の先生との間に確かな信頼関係があることがうかがえます。
- 充実した学校生活を送っています 「学校に行くのは楽しいと思いますか」や「友達関係に満足していますか」といった質問に対して肯定的な回答が多く見られました。これにより、子どもたちが学校生活に満足感を持ち、友人との関係も良好であることがうかがえます。
- 社会貢献や地域への高い関心を持っています 「人の役に立つ人間になりたいと思いますか」や「地域や社会をよくするために何かしてみたいと思いますか」という問い、多くの児童生徒が積極的で肯定的な回答をしました。子どもたちが他者や地域のために貢献したいという強い意欲を持っていることがうかがえます。
- 基本的な生活習慣がしっかりと身についています 「朝食を毎日食べていますか」や「毎日、同じくらいの時刻に起きていますか」といった生活習慣に関する質問への回答状況から、岡谷の子どもたちが規則正しい生活を送る習慣を大切にしていることがうかがえます。
- 読書を通じて知的好奇心を満たし、学びを深めています 「読書は好きですか」という質問に多くの児童生徒が肯定的に答え、さらに、本が好きな子ほど学力調査の正答率が高い傾向にあります。このことは、読書が子どもたちの知的な成長に大きく寄与していることを示唆しています。
- いじめを許さない心が育っています 「いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思いますか」という質問にほとんどの児童生徒が「そう思う」と答えました。

## 4 分析結果をふまえた今後の取組

- 岡谷スタンダードカリキュラムの実践による探究的な学習や協働的な学びを推進し、主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業改善を一層進めるとともに、個別最適な学びを充実させ、個々のつまずきや興味関心、適した学び方等に応じた、個に寄り添い一人一人を伸ばす学びを推進してまいります。
- 各教科において9年間の学びのつながりを意識し、児童生徒の力が螺旋的に高まるように、小中が連携した指導を進めてまいります（「小中学びの連携」の充実）。
- 各学校においてどのような取組が成果につながったのかを分析し、今後のさらなる授業改善につなげてまいります。各学校の取組については、学力向上推進委員会で扱い、岡谷市全体で共有していきます。